スクールカウンセラーって？

最近、何だか子どもの様子がおかしい。朝になると「おなかが痛い」と言い出す。担任から「一度、カウンセラーに相談してみますか？」と言われたけれど敷居が高くて…。そんな声を聞きました。同じような悩みを持っている、経験した、という人もいるのではないでしょうか。2月の「討論」は、このスクールカウンセラーについて取り上げます。どんな人が、どんなアドバイスをくれるのでしょう。　（鈴木久仁子）

県内公立小中校に臨床心理士を配置

「心の専門家」としてスクールカウンセラーが公立の小中高校に配置されたのは1995年度。いじめや不登校の増加を受けて各都道府県に3人ずつ、さらに兵庫県には阪神・淡路大震災の被災児童生徒のために11校に追加配置された。2008年には全国で1万2千校に増えた。

配置は、不登校やいじめ、非行傾向など行動の背景が多様化、複雑化する中、児童生徒が抱える心の悩みや問題を学校だけではなく、外部の専門家と連携して解決に当たるねらいだ。

県内では本年度、全公立中346校に配置され、小学校も中学校との兼任で、全校を網羅。高校には依頼があれば派遣するキャンパスカウンセラー制度を設けている。また、採用資格は、大学院で高度な専門知識を身につけた臨床心理士に限定している。

学校は、週に1回か隔週でカウンセラーとの相談日を設け、保護者や子どもとの面談を受け付けている。

県教育委員会義務教育課の河野剛至主任指導主事は「保護者が教員以外に悩みを話し、アドバイスを受けられるいい機会で、最近はカウンセラーの存在や役割がかなり浸透してきたように思う。また、教室をのぞいてもらって、教員が日ごろ気になっている子どもの相談にのってもらうこともある。今や、なくてはならない存在」と話す。

子、親、教員の心をつなぐ

じっくり話聞き、伴走する存在

スクールカウンセラー　河村夏代さんに聞く

子どもや保護者にとって、スクールカウンセラーは気分的に少し〝距離〟のある存在だが、当のカウンセラーたちはどのように考えているのだろう。芦屋市立中学校で14年間教員として教え、現在は阪神南地区の小中学校でスクールカウンセラーを務める河村夏代さんに聞いた。

◇

4月に新任の先生と一緒に紹介してもらうこともあります。小学生には「困ったことがあったら言ってね」、中学生には「愚痴を聞く係。親や友達、先生のことでもいいですよ」とあいさつします。

相談には、担任や養護教諭を通して母親が訪ねてくるケースが多い。不登校が入り口でも事情はさまざま。親からの話では分からない面もあるので、子どもと一緒に来てもらいたいですね。

カウンセラーは内科医ではなく、特効薬があるわけでもない。じっくり話を聞いて、見えない子どもの心を探り、伴走していく存在だと思ってもらいたい。

「悩む母親に任せきりにせず、父親の理解と支えも大切ですよ」と話す河村夏代さん＝西宮市甲陽園西山町2

初期の対応を大切に

いまだに「うちの子は大丈夫」「カウンセラーに相談しても」という反応があり、ずるずると時間がたち、問題がこじれてしまうことも。初期の対応が大切です。親の中には「育て方が悪い」と責められるのでは」と敬遠する人もいますが、どの親も難しい思春期の子を前に、懸命に取り組もうとしています。

心がけているのは、その子が持つ力を引き出すこと。区切られた時間での評価にとらわれがちな先生や、焦る親とは少し違う視点ですよ。

成長を見ます。大切なのは将来、社会に出た時に自分で意思決定し、歩いていけること。そのために、今どこを見ればいいのかを考えています。

ずっと不登校だった子どもの「今朝は自分で起きられた」というひと言は、「また来れんのか」という先生にとっては見逃しかねない小さな成長。でも、この芽を摘まずに育てていくようにしています。一度来ると、「これだったら」と安心してもらってますよ。

かわむら・なつよ　臨床心理士。昨年、西宮市で子育て支援のNPO「あんずぼこ」をつくり、不登校の子どもたちを受け入れている。

読者の声から

相談で気が楽に／救世主／卒業後も継続して

読者からも、さまざまなご意見や体験談を頂いた。

娘2人が小中学生の時に利用したという40代の母親（三田市）は「生活面や友人関係で相談したが、数時間でも気が楽になった」と振り返る。中3女子の母親（神戸市）は「中1で親の金を盗んでは大量の菓子や総菜を購入して隠すなどの行動に悩み相談したところ、丁寧に対応してもらい今は収まった」。また、高校で勉強につまずいて投げやりになり、会話もない息子のことを相談したという母親（加古川市）は「熟心に聞いてもらい、助言を実行したところ、就職の内定も得た。わらをもつかむ思いの私には救世主。毎日常駐してほしい」と体験を寄せた。

利用したことはないが「無料だし、具体的な効果があるなら…」（西宮市）と関心を持つ意見もあった。

一方で、ネット依存傾向のある中2の娘のことを相談したという親（神戸市）からは「親身に考えてくれている感じはするが、専門知識が足りない印象を受けた」。

教員からも意見が届いた。神戸市の男性教員は「不登校や発達障害の生徒の担任をしたときに相談し、具体的なアドバイスを得て余裕ができた。教員は授業や進路指導で多忙なので貴重な存在」という。逆に、中学の女性教員からは「カウンセラーの契約は短く、生徒が卒業したらそれきり。子どもが周りの目を気にせず悩みを打ち明けられるためには、地域の図書館などに常駐するような形が理想では」と指摘する。

関西福祉大学発達教育学部の講師で臨床心理士の市橋真奈美さんは、専門家の立場から「カウンセラーは子どもや保護者の代弁者として、問題をうまく学校に伝え、連携をとっていかなければならない。子どものために歩み寄り、補完しあえる関係になることが大切」と強調した。